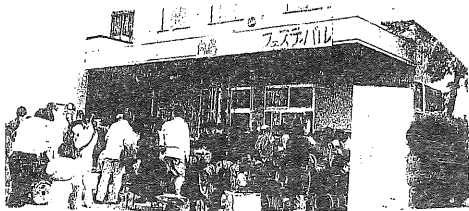


# 愛隣館研修センターニュース 第53号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail :Dayservicecenter.Airin@ma2.seikyou.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行人：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



## 向島 にっこりフェスティバル 無事終了!

去る11月25日(日)、あの「向島・にっこりフェスティバル」(以下、「にっこり」)が4年ぶりにリニューアル、さらにパワーアップされ、記念すべき21世紀最初の年に帰って参りました。(参加団体：ベテスタの家、ベテスタの店、ふうせん文庫、きょうと夜回りの会、アジアボランティアセンター、京都精神障害者の人権を守る会、西小倉めぐみ研修センター不登校・引きこもり青少年支援事業、向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』 後援：京都新聞社会福祉事業団)

### 「にっこり」復活

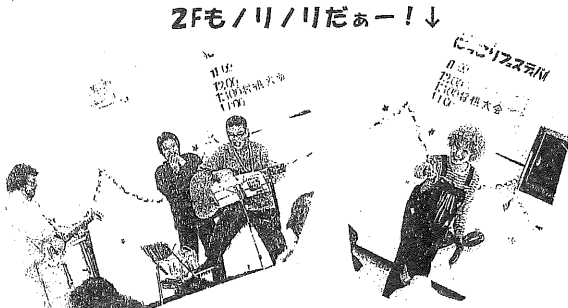
なぜ、急にこの「にっこり」が復活したかという、ご存じの方も多そうですが、2年半前より活動を開始した向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』のことを、より広く地域の方に知っていただき、理解を深めていただきたいと思ったからです。

### バザー会場では...

当日は、まさに絵に描いたような小春日和。ポカポカ陽気のすがすがしいお天気に誘われて、本当に沢山の方が来館して下さいました。おかげで、皆様方のご厚意でお寄せいただいた寄贈物品バザーは、所狭しと積まれていたにもかかわらず、あれよあれよという間に飛びように売れ、お昼を過ぎた頃には、会場の方も閑散とした空気に包まれるほどでした。

### 2F特設会場も大人気!

まずは、バルーンアート職人マルヤマによる「バルーンアート大会!!」。細長い風船が、色々なものに形を変えていく様子を子ども達も大喜びでした。続いては、ダモンテ&しんぺい&丈一郎による「ミニコンサート!!」。軽快な歌とリズムに、若いも若きも我を忘れて踊りたおしました。最後に恒例の「将棋大会!!」。日頃、デイの余暇活動で鍛えたウデに覚えのある?猛者達。地域の人々と白熱した好勝負を繰り広げていたようです(中には、小学生にコロリと負かされていたK氏のような人もいました)。2Fもリ/リだあー!↓



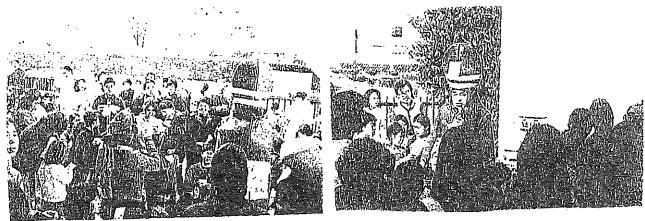
楽しい催しと平行して、『遊隣』のパネル展示も多くの方々に見ていただき、より一層この活動について理解を深めていただけたことと思います。

### 屋外駐車場では...

各参加団体と実行委による模擬店では、皆様の胃袋の方を満足させていました。次々とお客さんが来られ、担当者は大忙し!!。息つく暇もないほどでした(各担当の皆さん、本当にお疲れさまでした)。

### Let's BINGO!

はい!!、ラストイベントの豪華賞品早い者勝ちの「大ビンゴ大会!!」が、フェスティバルのフィナーレを飾るにふさわしく、賑々しく開催されました。ビンゴプレゼントのボーリングマン、ドラえもん、サルの息の合った?チームプレーでナンバーがシュートされる度に、ハラハラドキドキの展開。大盛り上がりになりました。



異様な盛り上がりを見せたビンゴ大会

本当に沢山の方々に来ていただき、晩秋の一日を楽しく過ごすことが出来、感謝感激です。物品バザーに献品頂いたり、御献金いただいた皆さん。並びに、当日スタッフとしてお手伝いして下さいました方々に、この場を借りまして改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。来年?の「にっこり」もよろしくお願いたします。お越し頂きながら、駐車場のお知らせ不足等で、バザーに参加できなかった皆さん、申しわけありませんでした。来年、ぜひお越し下さい。

# 年末 放談会?

## どないなんのん? これでエエのん? これからの福祉制度



昨年6月に「社会福祉事業法」が改正され、新たに「社会福祉法」になりました。  
何がどう変わったのでしょうか? またどう変わっていくのでしょうか?  
今回は、自立生活21年・デイサービスの重鎮K氏、センターの物知り博士の“ハカセ”、  
そしてデイ中堅職員の“マー”の3名にご登場いただき、皆さまに分かりやすく(?) ご説明いたしましょう。

### 「措置」から「契約」へ

ハカセ 「Kさん、入院してたってゆうけど、どないしたん? もう大丈夫なん?」  
K氏 「もう大丈夫だよっ!」  
ハカセ 「ほんで、なんやったん?」  
マー 「そらあ言えんなあ! なあKさん!」  
ハカセ 「なんでやねん! そんな悪いんかよな?」  
マー 「胃炎だけに言えんわなあ!」  
K氏 「フオーツフオーツフオーツフオーツ!」  
ハカセ 「なんやそれ! ところでKさん、これから社会福祉が変わるっていう話しやけど…」  
K氏 「ボクそんなん知らないよっ!」  
マー 「知らんって! 『措置』から『契約』の時代になるってゆう話しやん!」

### 自分で決める?!

ハカセ 「そうそう、これまでは学校を卒業したりした時に、障がいの程度や、施設側の空き状況なんかで、“あんたどこどこに行きなさい” って本人や家族の希望じゃなくて、行政側の都合で決められてたんやん。それが、これからは障がい者本人の自己決定が尊重されるっていう話しやん!」  
K氏 「なんだそんなことか!」  
マー 「なんだそんなことかって!」  
K氏 「だって、ボクには関係ないでろっ!」  
マー 「はあ? あるやん!」  
K氏 「だって、ボクはこれまでも自分の生活は自分で決めてきたよっ! 行政にどこかに行くように言われたことなんかないよっ!」  
ハカセ 「そやなあ! Kさんの場合は施設を出てからは自分で介護者を探して、生活してきてはったんやもんなあ! 自分の生き方は自分で決めるってゆうことは、考えたら当たり前のことやんなあ!」  
マー 「そやねんけど、これまではなかなか利用する人の希望どおりにはいかへんかったやん。だって、いわゆる重度の障がいをもつ人、特に医療的ケアが必要な人は、安心して利用できる施設自体がなかったやん。」

### 支援費制度へ

ハカセ 「ほんまや! でも2003年からは『支援費支給制度』ってゆうて『自己決定』と『利用者本位のサービス提供』を基本とした契約に基づく制度が始まるんやで。」  
K氏 「そんなんで大丈夫なんかつ? 自分で決められるっていつても、選べるサービスがなかったらアカンだろっ!」  
ハカセ 「そのとおり! それに、利用者本人が自らサービスの選択ができるってゆうてるけど、まず本人が支援費支給の申請を市にしなアカンねん。その後、市が適切であると認めた時に支給決定をするねん。」  
K氏 「それだったら、最終的には自分で決めるんじゃあないじゃないのっ!」  
ハカセ 「本人の希望を尊重して、きめ細やかな対応をするってゆうてるけどなあ。でもその人がどれだけの量のサービスを受けられるかは、障がいの程度や家族の状況によって決められるんやからなあ。これまで受けてたサービスが支援費制度になっても同じように利用できるかどうかはまだわからんねん。」

### デイサービスはどうなるん?!

マー 「はあー、支援費になったらデイサービスも大変なんやでえ! 利用する人が休んだりしたら、お金がおおりてきいひんようになるんやって。どないしたらエエのん?」  
ハカセ 「ほんまやなあ! おたくのデイサービス大丈夫なん?」  
マー 「まあ、〇〇市さんはこれまでもデイについてはよく考えてくれてはったし、大丈夫やろ!」  
K氏 「それだったらいいけど、ボクの利用がどうなるんかも心配だよっ!」  
マー 「それは、どうやろ! アカンかもわからんなあ!」  
K氏 「はいはい、わかりましたよっ!」  
ハカセ 「おほおほ! 利用者の立場に立ってサービス提供しなアカンのんちゃうん?」

(※この会話はフィクションであり登場人物ならびに団体は実在のものとは一切関係がありません)

来館者たち

朋? 有り遠方より来たる また樂からずや

センターニュースに登場して下さった方、愛隣館研修センターネットワークにかかわって下さった方が  
デイサービスを訪れ、新しい風を吹き込んで下さいました。その時々の様子をご紹介します。

Sep. 25th. 2001

フェリックス・スギルタラージ牧師

インドチェンナイ近郊でダリットの人たちの自立を支援する活動、「農村貧困者の為の協会(ARP)」の創設者。昨秋、スタッフがツアーで現地を訪れました。今回は、愛隣デイサービスセンターの動きに興味を持たれて初来館。陶芸にも初挑戦!

…重度の障がいを持つ人たちが生き生きと暮らしている様子に感銘を受けられ、是非ともインドに招きたいとおっしゃって下さいました。インドに行きたい人ご連絡を!

土井 敏邦さん

ジャーナリスト。フェリックスさんと一緒に来館され、ご本人が作製されたビデオ「タイのHIV/AIDSに感染、発症した子どもたち」をオンエア前に特別に見せて頂きました。

…当センターの利用者がインドを訪れることになったら、是非取材をさせて欲しいとおっしゃって下さいました。テレビに出たい人ご連絡を!

Sep. 26th. 2001

榎本 恵さん

現在沖縄に在任。今年度のデイサービスの旅行が沖縄とあって、ここぞとばかりに質問が飛び交いました。

…食後のゲームで熱くなっていた榎本さん、さすが「サイの突進」と呼ばれるだけありますなあ。1月にはお世話になります。

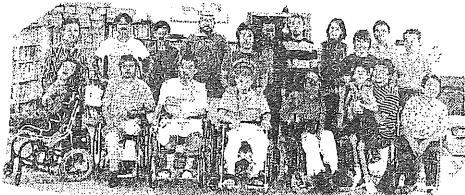
Oct. 10th. 2001

木村 公一さん

SIEAのインドネシアセミナーでお世話になりました。来日されるとの情報をキャッチし、お忙しい中、インドネシア情勢についてお話していただきました。報復の空爆が行われてすぐの時期とあって、イスラム教国家インドネシアについて、利用者の質問も真剣そのものでした。偏りがちな日本での情報を「人」の見える形でのお話で、払拭して下さいました。

…タカ派の発言を繰り返しておられたAさんも、木村氏のお話で平和主義者に変身(?)されていました。

フェリックスさんを探せ!



陶芸に挑む  
フェリックス氏



木村氏と  
意気投合(?)の  
A君

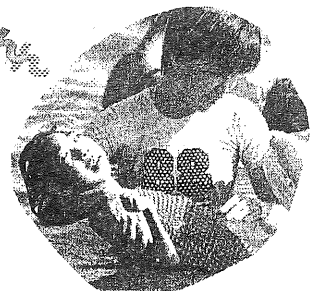


Oct. 22th. 2001

宮島 美智子さん・加奈子さん

利用者のお友達が北海道の滝川から遊びに来て下さいました。

…おいしいリンゴどうもありがとうございました。



ありがとう ゆきちゃん

『遊隣』発足当時のメンバーであった福崎友紀さんが2001年11月23日にイギリスのロンドンで、11歳4ヶ月の短い生涯を閉じられ、天国に召されました。

今年の夏には『遊隣』のキャンプにも参加され、琵琶湖で、大笑いに小泣きと色々な表情を見せてくれた友紀ちゃん。ロンドンへ旅立たれ、別れのつらさが消えない間に、さらに大きな別れがやってくるのは誰もが考えられないことで、スタッフ一同驚きと、悲しみを隠すことはできません。

歌と水遊びが大好きなゆきちゃん天国でも素敵な笑顔でいっぱい遊んでね。楽しい思い出をたくさん残してくれてありがとう。心よりご冥福をお祈りいたします。

# クリスマス献金のお願い



日頃は、当センターの活動をご理解頂き、  
様々な形でご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

当センターでは、障がい児・者とその家族とが地域で生き生きと安心して暮らしていくために、様々な活動を展開してきております。1990年の「生活センター設立準備会」から始まり、障がい者デイサービス事業の「愛隣デイサービスセンター」が1993年に、また、1999年には「向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』」が設立されました。お金や制度がない中でも、障がい児・者とその家族とが、地域で自らの尊厳が守られて生きていきたいという切実な思いに微力ながら応えてきました。それが続けられたのも、ひとえに皆さま方からの暖かいご支援とご協力のたまものであると感謝いたします。

これから社会福祉制度が大きく変わっていくとも、障がいを持つ人のみならず、すべての人が大事にされる社会を目指して歩んでいきたいと願っております。その実現のために、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げます。

## クリスマス献金、目標金額

1, 000, 000 円 ※ 口数、金額ともに任意です。

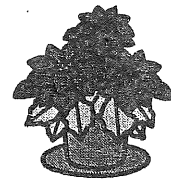
## 送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

## 郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



☆お知らせ☆

▽愛隣館研修センターは、十二月二十九日～一月六日まで冬期休館日とさせていただきます。

▽来る十二月二十二日に、愛隣デイサービスセンターにて「障がい者地域生活支援センター『遊隣』」主催のクリスマス会が行われます。午後二時より

★編集後記★

▽今年度は何とか季刊発行できました◇少しでも多く、センターの活動をお知らせする機会が増える事を願いつつ…(さ)

▽先日、3面に既報のように、『遊隣』のメンバーであった福崎友紀ちゃんが天国に召されました。◇「重い」障がいを持つ人の命について考えさせられました◇あたりまえのことなんです、その人と共に過ごす瞬間を本当に大事にしたいと感じました◇友紀ちゃん天国から応援してね!(ひ)